

# 話 題 の 焦 点



挨拶する村岡実行委員長

国際カンカ研究会主催「第2回国際「カンカ」シンポジウム」が11月27日に近畿大学で開催された。カンカ(学名:カンカニクシユヨウ)とは、中国新疆ウイグル自治区

## カンカ機能多数発表

### 第2回国際「カンカ」シンポジウム開催

改善能力、美肌作用による化粧品分野への可能性などが発表され、研究が進んでいることをうかがわせる内容となった。特別講演では、「微小循環障害に対する丹参の改善効果とそのメカニズム」を北京大学・韓晶岩教授が、京都薬科大学吉川雅之教授が薬用植物のメタボリックシンドロームに対する強い補足活性を有することを発表した。

タクラマカン砂漠等の砂漠地方に自生する紅柳の薬学総合研究所・村岡修一教授が、北京大学・中薬現代研究所の屠鵬教授は、「中国で増加する機能を発表し、カンカ研究の権威として知られる北京大学・川雅之教授が薬用植物のメタボリックシンドロームに対する強い補足活性を有することを発表した。

木に寄生するハマウツボ科ニクシユヨウ属の植物である。古来より活力の源として食され、滋養強壮作用など様々な機能が明かにされている。今回のシンポジウムでは、抗酸化活性、脳機能

臨床としても利用されているカンカは、日本でもアンチエイジングを志向した食品素材のみならず、補完代替医療の素材としても注目を集めている。飛教授は、アルツハイマー症の発病に關与するアミロイドβたん白誘導のデータを紹介。カンカ氏は、医薬品との相互作用について「医薬品の体内動態に対し、深刻な影響を及ぼす可能性は低

く、安全性の高い機能性食品であることが示された」とした。大阪樟蔭女子大学大学院の北尾悟教授は、カンカの抗酸化能評価を行い、主要成分であるエキナコシドとアクテオシドが各種ラジカル

生成抑制などによる美肌作用、経皮吸収性などから「機能性化粧品素材として有用である」と講演した。問い合わせは、近畿大学内、国際カンカ研究会事務局 ☎06・6730・5880。